

仏像に親しもうー仏像の種類とその意味ー

日時：8月18日 田淵五十生

- 1 はじめに 案外意識していない仏像 奈良で学ぶものが誇りにできるのではないか
 - ① 普遍的宗教の普及における地域（民族）的変容
仏教：中国では道教や儒教 キリスト教：各地の宗教との習合 ex. 北欧神話
ムスリム：地域的変容 トルコ系民族では飲酒の容認
 - ② 宗教の普遍性：生き方の基本は「慈」「悲」であり「愛」「共感」ではないか
”泣くものとともに泣き、喜ぶものとともに喜ぶ“
田淵の仏教観 1「あなたはあなたであることに置いて既に貴い」『発句教』
ii「白玉は人に知られず知らずともよし 知らずとも吾し知るれば知らずともよし」(『万葉集』元興寺の僧の歌)
 - ③ どの宗教も歴史的変容の過程で現代にいたっているのでは
- 2 日本仏教の特色：修行を積んで、自ら悟りに至る原始仏教から遠く隔たっている。
 - ① 北伝（大乘仏教）中央アジア（ガンダーラ）を経由してシルクロードを通して、中国、朝鮮半島、日本 菩薩の概念の導入（哲学から信仰）鳩摩羅什 玄奘三蔵
 - ② 南伝（上座部仏教）インドの原始仏教が、スリランカ、東南アジア（インドシナ半島）を経由して伝播 修行（出家）して悟る（哲学）
- 3 仏像誕生の経緯
 - ① 当初は偶像化を憚る あまりにも偉大過ぎる釈迦を造形化できない
・仏舎利を安置したスツーパー（仏塔）日本 卒塔婆 中国 塔（タア）
英語ではタワー 独語ではテュール
・菩提樹 悟りをこの木の下で開いた 法輪（真理＝インドの国旗） 仏足跡
 - ② ガンダーラ地方 アレクサンドリア ギリシャ文化 彫刻化 ex. ミロのビーナス
・当初は西洋人の容貌 シルクロードを東進するに従い東洋的な風貌に変容
- 4 仏像の種類と変化
如来（ニョライ）：すでに悟りを開いたもの 装身具なし
菩薩（ボサツ）：悟りを求めて修業中のすがた 釈迦は王子であった アクセサリー
明王（ミョウウ）：如来の使いとして教化する（インドの密教の神）憤怒 愛の別側面
天部（テンブ）：インドのヒンズーの神が仏教の守護神になる

* 阿修羅の故郷 ゾロアスター教 イランのヤズドが聖地 マズダランブ MAZDA

- 5 伽藍の変化：塔中心（上座部的仏教）から金堂中心（大乘仏教）へ
 - ① 金堂：本尊（中心になる仏像金人） 仏法の真理を体現
 - ② 塔：舎利（釈迦の骨）が埋められている 歴史上の釈迦
 - ③ 講堂：レクチャーホール 僧侶が修業する所 唐招提寺は講堂から建設
 - ④ 中門：回廊の入り口（阿吽の仁王） 内部は聖域

飛鳥寺（法興寺）四天王寺 法隆寺 薬師寺 東大寺 浄瑠璃寺（浄土式伽藍）